



旧鹿屋航空基地特別攻撃隊戦没者慰霊塔（今坂町）

昔 昭和33年



今



小塚公園内に建つ慰霊塔。旧鹿屋航空基地から飛び立った若き特別攻撃隊隊員の霊を慰めるために、全国から多額の浄財が集められ、昭和33年に建てられました。当時はまだ周囲に桜の木が無いことが分かります。毎年、桜の花が咲く4月初旬（今年は4月7日(土)）には追悼式が開催され、全国から参列者が訪れます。



鹿屋の歴史を巡る旅

カノヤタイムトラベル

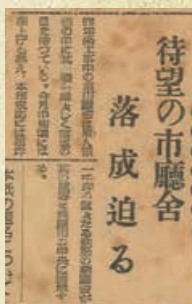
初めての広報誌発行

戦後6年が経った昭和26年8月、「祝市制実施十周年記念」と題し、華々しく創刊した旧鹿屋市の広報誌「かのや市役所だより」。サイズはB4版より少し小さく、4ページで、新聞のような作りです。

誌面には、民主政治の推進のために創刊は念願だったと、当時の市長、助役、収入役、市議会正副議長による喜びの言葉が記されており、戦後の希望に満ちた息づかいが伝わってきます。

ページをめくると、12月末に完成予定の市庁舎の建設工事を伝える記事や、鹿屋警察予備隊司令官・ラムジー中佐のインタビュー記事など、当時ならではの興味深い記事が掲載されています。

その後、「かのや市役所だより」は、昭和35年1月に「かのや市政



鉄筋3階建ての新庁舎の建設工事を伝える記事



「かのや市役所だより」創刊号

だより」、昭和36年4月に「広報かのや」と名を変えました。以来、平成18年の市町村合併により新鹿屋市となって以降も、その名を引き継ぎ、現在に至っています。

創刊号の編集後記には、こう記されています。「かねて念願されていた『市役所だより』が実現の期に達したのであります。新聞式のものでなく、又堅苦しいものでもなく、市と市民とをつなぐ肩のこらない活きたものでなければならぬ」と言うまでもありません。

今号からリニューアルした広報誌。創刊号での先達の情熱と気概に改めて思いを致し、今後も市民の皆さんに、市政の情報を分かりやすく発信していきます！